

都市再生整備計画 事後評価シート
大船渡港湾周辺地区

平成23年3月

岩手県大船渡市

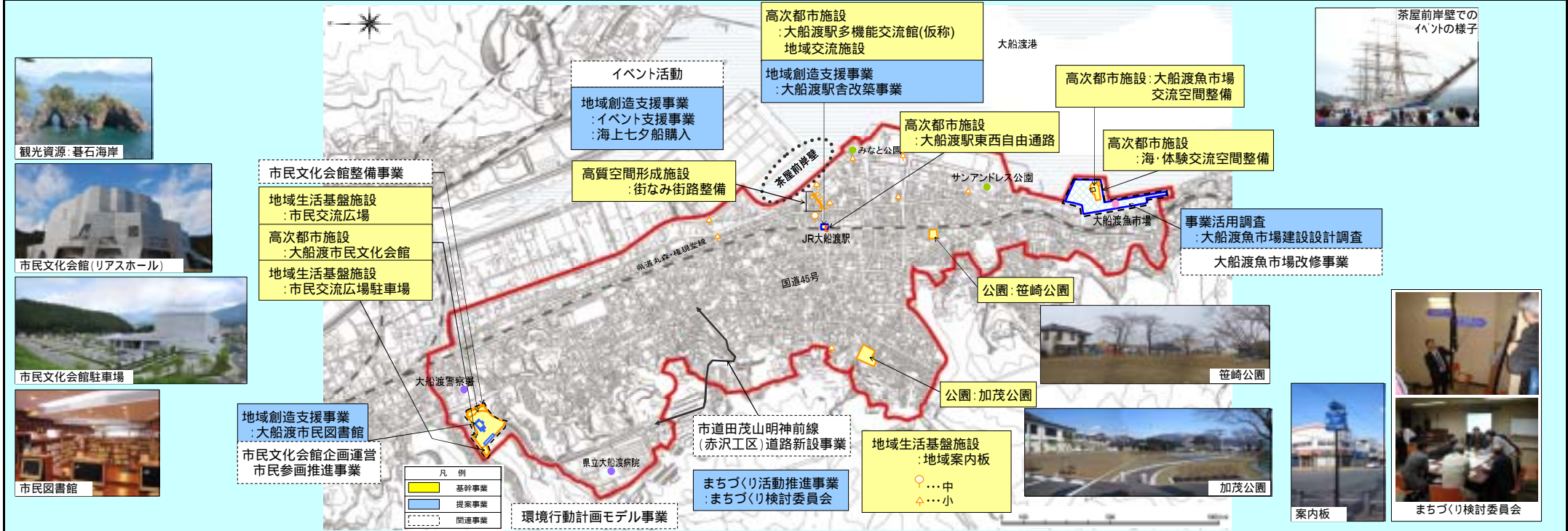
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	岩手県	市町村名	大船渡市	地区名	大船渡港湾周辺地区		面積	248ha					
交付期間	平成18年度～22年度		事後評価実施時期	平成22年6月～平成23年3月		交付対象事業費	4,004百万円	国費率	0.427				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園(加茂公園および笹崎公園の整備)、地域生活基盤施設(市民交流広場、市民交流広場駐車場、地域案内板の整備)、高質空間形成施設(街なみ街路の整備)、高次都市施設(大船渡魚市場交流空間、大船渡駅東西自由通路、大船渡市民文化会館の整備)										
		提案事業	地域創造支援事業(大船渡市民図書館、大船渡駅舎改築、海上七夕船購入、イベント支援)、事業活用調査(大船渡魚市場建設設計調査)、まちづくり活動推進事業(まちづくり検討委員会)										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	市道大船渡駅前線 大船渡駅周辺整備事業		事業内容見直しのため、削除 関連する事業の事業期間見直しに伴い、削除(実施の見送り)		交流人口増加の目標に係るが、数値目標は据え置く						
		提案事業	環境行動計画推進事業 交通社会実験 事後評価調査 市民文化会館企画運営市民参画推進事業		実施主体および体制の確保が困難なため、削除 民間事業者のバス運行により、削除 まちづくり検討委員会に事業統合のため、削除 別財源での実施となったため、削除		交流人口増加や市民文化会館利用者の指標に係るが、数値目標は据え置く						
新たに追加した事業	基幹事業	海・体験交流空間 大船渡駅多機能交流館(仮称)地域交流施設		交流空間整備事業の一部を当該事業に移行 提案事業(駅舎改築)の一部を当該事業に移行		事業区分の見直しによる変更のため、特に影響はない							
	提案事業	なし											
交付期間の変更	当初	平成18年度～平成22年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響									
	変更												
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	大船渡港湾周辺イベント参加者数	人/年	244,200	H16	270,000	H22	261,044	231,046	×	あり なし	イベントについては、他地域で開催されるイベントの時期が重複したり、内容が類似するなどが影響したことが未達成の要因であると考えられる。 一方で、イベント会場となる茶屋前埠頭への給水・電気設備の整備、市民団体へのイベント開催支援や海上七夕船購入支援などにより、イベント開催時には多くの来訪者等による交流が図られ、賑わいが向上した効果も現れている。	平成25年5月
	指標2	会議室・研修室・図書館利用人数	人/年	85,787	H16	110,000	H22	69,490	113,457		あり なし	市民文化会館が整備されたことにより利用者は順調に増加している。市民文化会館は大ホールや会議室だけでなく、図書館を併設するとともに茶室、アトリウム等も含む複合施設であることから、市民交流広場を含めた相乗効果により今後も多くの人の利用が見込まれ、市民の文化活動の促進が期待される。	平成25年5月
	指標3	一時避難所での避難生活に対する安心感	点	2.64/5.00	H17	3.00/5.00	H22		2.16/5.00	×	あり なし	防災機能を有した公園、避難所となる市民文化会館の整備により防災機能の向上が図られたものの、それが市民の安心感に直接つながる結果とはならなかった。 度重なる大きな地震やチリ地震津波による避難生活を強いられたことや、指標に「不安感」といった様々な要因で変動するものを設定したことが未達成の要因であると考えられる。	平成25年5月
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1		大船渡港湾周辺地区におけるイベント数	回/年	17	H17			48		イベント会場となる茶屋前埠頭への給水・電気設備の整備、市民団体のイベント開催支援により、多くの来訪者等による交流が図られた。また、平成20年度の高フェスタを契機に市民主体のイベントが多く行われるようになり、市民文化会館の完成により市民活動が活発化し、交流促進に貢献している。	平成25年5月	
	その他の数値指標2		防災機能設備の設置都市公園の割合	%	0.0	H17			88.9		防災機能設備を都市公園に整備することによって、一時避難活動の不便を軽減することができ、計画区域内のみならず市全体の安全・安心に貢献している。	平成25年5月	
	その他の数値指標3		災害時における公園の防災機能を利用した一時避難活動の可能度	点					3.35/5.00		加茂公園、笹崎公園に防災機能設備(ソーラー式照明灯、非常用トイレ、かまどベンチ)を整備することにより、災害時の近隣住民の一時避難活動の不便の軽減につながり、安全・安心に貢献している。	平成25年5月	
4)定性的な効果発現状況	市民文化会館建設時に、設計内容や運営のあり方に関する検討の中心であった企画運営委員会の後を受け、開館後の運営の一翼を担うため平成19年10月に新たに設立された市民参画型組織が、市民文化会館の自主事業について自ら企画・実施している。この動きが評価され、総務省より平成21年度地方行政改革事例に選定された。平成20年度開催の「高フェスタ」を契機に、大船渡海洋少年団の活動が活発になった。客船歓迎セレモニーを企画する大船渡港振興協会と協力して客船歓迎に参画するほか、自主企画として茶屋前岸壁のプッシュボート船を活用したイルミネーション(夏・冬)設置と関連イベントの開催といったみならずまちづくりに相応しい活動がなされている。 防災機能を有する公園として整備した加茂公園、笹崎公園について、地域住民を対象に防災設備の使用法の説明会(40名参加)を開催し、アンケート調査を実施したところ、約8割の方が防災設備の整備に対して「満足・やや満足」と回答した。また、「非常用トイレの整備を評価する」「防災機能が整備されたことを知って安心感が向上した」といった意見が多く寄せられ、一時的な避難活動に対する安心感の向上に貢献した。 三陸大船渡夏まつり実行委員会によると、まつりの総予算額に対して、まつり期間中の市内宿泊や商店街の売上等の調査による総額が約2.5倍となっており、まつり開催の効果として報告されている。これらは関係者の努力の結果であるとともに、イベント支援事業等の効果が現れたものであり、大船渡駅・大船渡港湾周辺地区の賑わい再生に貢献した。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況			今後の対応方針等						
	モニタリング	中間モニタリングを実施し、各事業の進捗状況を確認するとともに、事業実施期間等の見直しを図った。庁内検討委員会を開催し、事業の課題等の認識の統一を図った。さらにホームページ等で計画書等を公開し、市民の意見等を取り入れるようにした。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も継続して施設利用者数やイベント参加者数を確認し、数値目標の達成度を確認・フォローアップする。 庁内検討委員会は、まちづくりに効果的であることから、部局横断的な課題に対して活用していく。 今後、フォローアップに関する情報を掲載し、閲覧できるようにする。					
	住民参加プロセス	まちづくりに関連する団体等で構成する「みなとまちづくり懇談会」を開催し、事業説明を行うとともに、意見の取入れを行った。また、市民が主体となった市民文化会館自主事業実行委員会において、開館前のプレイベント・お試事業や開館後の自主事業の検討を行うとともに、実際にイベントの企画・運営を行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後のまちづくりに関して、引き続き住民参加型の協議の場を設け、大船渡港湾周辺地区の賑わい創出に向けた取組みを検討していく。 今後も市民文化会館自主事業実行委員会を継続し、市民の文化活動の促進のために協働しながら活動を支援していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	庁内検討委員会を開催するとともに、みなとまちづくり懇談会を開催した。さらに市民文化会館自主事業実行委員会の支援など、継続的な取り組みを行った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			庁内検討委員会は、事業終了後も引き続き将来ビジョンの達成に向けて中・長期的な目標達成を目指し、交付金事業の活用を含めた継続した検討を行うとともに、部局横断的な課題解決の組織として活用していく。また、市民活動を支援する中で、市民団体間の連携促進、市と市民団体との協働のほか、新たな団体との協力関係を模索する。市民文化会館自主事業実行委員会は、継続して活動し、市民文化活動の促進のために協働しながら活動を支援する。					
	官民で組織する「大船渡港振興協会」が主体として実施する客船歓迎セレモニーに大船渡海洋少年団や大船渡ユネスコ協会などの民間団体が参加し、みなとまちづくりでの連携を促進した。さらに大船渡海洋少年団は、独自にみなとまちづくりイベントの企画・運営を行い、それに対して支援をした。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			今後も海に関連するイベントを中心に協働しながら、活動を支援していく。						

様式2 - 2 地区の概要

大船渡港湾周辺地区(岩手県大船渡市) 都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
大目標 : 大船渡駅・大船渡港周辺の賑わい再生と環境にやさしいまちづくり 小目標 : 大船渡駅・大船渡港周辺の交流人口増加による賑わい・コミュニティの活性化 小目標 : 文化拠点機能の強化・連携による文化活動の促進 小目標 : 安全な安心できるまちづくりによる防災力向上	大船渡港湾周辺イベント参加者数	単位:人/年 244,200 H16	270,000 H22	231,046 H22
	会議室・研修室・図書館利用人数	単位:人/年 85,787 H16	110,000 H22	113,457 H22
	一時避難所での避難生活に対する安心感	単位:点 2.64/5.00 H17	3.00/5.00 H22	2.16/5.00 H22
	大船渡港湾周辺地区におけるイベント数	単位:回/年 17 H17		48 H22
	防災機能設備の設置都市公園の割合	単位:% 0 H17		88.9 H22
	災害時における公園の防災機能を利用した一時避難活動の可能性	単位:点 -		3.35/5.00 H22



まちの課題の変化

・イベント支援事業の展開によりイベント開催時の賑わいは向上し市民主体のイベントが増えてきているが、年間を通しての交流の活発化までには至っておらず、市民、各種団体や商店街等とも協働しての取組みが必要である。

・歩行者用案内板やソーラー式街路灯が整備されたことにより、歩行空間の快適性の向上とともに観光交流促進へとつながったが、主要施設以外の案内が依然不足しており、手法や実現方策を含めた検討が今後も継続して必要である。

・市民文化会館の整備により、市及び計画対象区域内の文化活動の拠点として機能することになり、利用者数も順調に増加している。市民文化会館内の利用頻度の低い施設も含めたより効果的な利活用を検討する必要がある。

・防災機能を備えた公園や一時避難場所ともなる市民文化会館を整備したことにより、防災力の向上や、安全・安心感が高まった。更なる向上のため、市民への整備内容の周知などが必要である。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・賑わい創出のためのイベントの継続や街なかの回遊性を向上させる取組みが必要であることから、イベント開催等への支援やみなとまちづくりに向けた官民協働体制の継続と活動への支援を行う。

・大船渡駅、大船渡港から商店街や魚市場へ来訪者や観光客を誘導できるような仕掛けづくりを商店街組合等と協働で行う。さらに街路灯による光誘導と併せた効果的な誘導を図る。

・市民文化会館に関しては、効果的な利用促進に加え、市民や利用者の要望を把握・反映できる仕組みを強化するため、イベント開催等への支援や市民文化会館自主事業実行委員会を中心とした市民主体の活動を支援する。

・防災機能や安全性の継続確保のためには公園や広場の適切な運営管理が必要であるため、維持管理委託などの検討を行う。

・市民文化会館や公園の防災機能の周知を図るとともに、自主防災組織などの市民の主体的な防災活動を促進する。